

# 能登一周 万感ゴール

ツール・ド・の最終日



3年ぶりとなる「ひゃくまん穀プレゼント」第34回ツール・ド・の400「同実行委、北國新聞社、富山新聞社主催」は最終日の19日、七尾市から金沢市までの約120キロで行われた。気温が上昇する中、出場者は汗だくになりながらも「さっそうと」走り、ゴールにたどり着き、万感の表情で能登半島一周約420キロを巡る3日間を終えた。



最終日のコースを完走し、笑顔で記念撮影する出場者 〓金沢港クルースターミナル

## 3日間で420キロ 仲間と走破たたえ合う

最終日は出場者が午前7時半に七尾市和倉温泉を出発し、氷見市や中能登町などを通って金沢港クルースターミナルを目指した。ゴールには午後2時すぎから続々と出場者が姿を見せ、記念撮影するなどして能登路の走破をたたえ合った。

大会は、1906（明治39）年に北國新聞社が主催した県内初の自転車ロードレースを源流とする。大阪府から初めて参加した吉田真奈美さん（58）は「ずっと参加したいと思っていて、ついに念願がかなった。台風が心配だったが、予定通り走り切れて良かった」と笑顔を見せた。常連の中村真也さん（41）〓金沢市〓は、ゴールした時の達成感が大会の魅力とし「今回は新型コロナで参加しなかった仲間もいるので、次はもっと大勢で走りたい」と意気込んだ。

最終日をトップでゴールした中学2年生の田中康佑さん（13）〓愛知県〓は「上りも下りも平地もあって、楽しく走れた。たくさんの方が応援してくれてうれしかった」と振り返った。

### 氷見の海岸線楽しむ

チェック・休憩ポイントとなった氷見市の比美乃江公園多目的広場には、午前9時すぎに先頭集団が到着。同市サイクルスポーツ協会の元会長の濱井祐雄さん（81）らが出迎え、市職員らが飲み物やおにぎりを配った。

氷見市内は富山湾岸の絶景を楽しむ、田園地帯を抜けて山越えるコースとなっている。神戸市から仲間3人と参加した金本仁在さん（48）は、氷見の美しい海岸線に「海越しに山が見えるのが素晴らしい」と満足げに語った。

### 感謝

「ひゃくまん穀プレゼント」第34回ツール・ド・の400は3日間の日程を無事終了しました。沿道の皆さまのご声援ならびに関係各位のご協力に深く感謝いたします。

ツール・ド・の400実行委員会  
北國新聞社